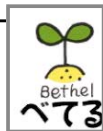


ココねっ♡と  
(こころネットワーク福山)



講演会の  
お知らせ

# 「べてるの家」が 福山にくるでえ～

3回目  
だよ!

市民のための  
精神保健福祉講演会 2010

## テーマ：「べてるの家」の当事者研究 —レッツ！ 当事者研究—

講師：大濱 伸昭（おおはま のぶあき）さん（浦河赤十字病院PSW）  
※2008年「幻覚&妄想大会」にて特別賞受賞（記事は裏をご覧ください）  
伊藤 知之（いとう のりゆき）さん（べてる当事者スタッフ、PSW）  
「べてるの家」のプロフィール（ウラ面をご覧ください）

日 時：2010（平成22）年2月28日（日曜日）午後2時～5時

会 場：イコール福山（男女共同参画センター） [福山ロツツ地下2階]

主 催：ココねっと（こころネットワーク福山）

協 賛：馬野神経科クリニック，おおたにクリニック，ガンパローズ，下永病院・松永  
駅前クリニック，NPO法人びいあらいぶ，びんごクリニック，福山仁風荘病院，  
福山友愛病院，社会福祉法人まどか（すみれ工房・とまり木），三谷整体，  
遊心工房

後 援：エフエムふくやま

参加費：300円《定員150人：参加チケットが必要です》

### ※注

駐車場はありますが有料  
です。公共交通機関をご  
利用ください。

当事者研究とは、精神障害を持つ当事者が自分自  
身のことを研究するという。どうにもならな  
い自分を、他人事のように考えてみる。すると、  
なぜだか元気になってくる、不思議な研究。だか  
ら合い言葉は、「自分自身で、共に」。

2006年と2008年に開催した「べてるの家」が福山にくるでえ～講演会  
あれから……2年……「べてるの家」が今年も福山にくるでえ～。  
今回は、「当事者研究」についてさらに学びます  
当事者研究を知らない人も、知っている人もレッツ！ 当事者研究。  
「当事者研究」を自分で行なうヒントをもらいましょう

※ご案内 講演会終了後に交流会を行ないます。参加費700円（軽食と飲み物の代金）  
定員70名（チケットが必要）。場所は講演と同じ会場。ぜひご参加ください。

問い合わせ先：長崎（ココねっと代表世話人）080-4264-0994

NPO法人びいあらいぶ 084-928-4647，遊心工房 084-921-2322

## 「べてるの家」のプロフィール

### ■ べてるの家とは

べてるの家は、1984年に設立された北海道浦河町にある精神障害等をかかえた当事者の地域活動拠点です。社会福祉法人浦河べてるの家、有限会社福祉ショップべてるなどの活動があり、総体として「べてる」と呼ばれています。そこで暮らす当事者達にとっては、生活共同体、働く場としての共同体、ケアの共同体という3つの性格を有しており、100名以上の当事者が地域で暮らしています。

### ■ べてるのはじまり

べてるの家は1978年に回復者クラブどんぐりの会の有志メンバー数名が浦河教会の旧会堂を拠点として活動をはじめたのがはじまりです。1983年、浦河日赤病院の精神科を退院した早坂潔さんをはじめとする精神障がいを経験した回復者数名が、浦河教会の片隅で昆布の袋詰めの下請け作業をはじめ、1984年に当時浦河教会の牧師だった宮島利光氏から、「べてるの家」と命名されました。現在では、精神障がいばかりではなく、様々な障がいを持った当事者が活動に参加しています。グループホーム「べてるの家」

### ■ 「地域のために、日高昆布を全国に売ろう！」

べてるの家の歩みは、様々な悪条件を好条件とし活かしてきた歴史から生まれたものです。社会的な支援体制の乏しさや地域経済の弱体化が、精神障がいを抱えながら生きようとする当事者自身の生きづらさと重なり合ったとき、「地域のために、日高昆布を全国に売ろう」という起業の動機につながりました。

### ■ べてるの家の理念

- ・ 三度の飯よりミーティング
- ・ 安心してサボれる職場づくり
- ・ 自分でつけよう自分の病気
- ・ 手を動かすより口を動かせ
- ・ 偏見差別大歓迎
- ・ 幻聴から幻聴さんへ
- ・ 場の力を信じる
- ・ 弱さを絆に
- ・ べてるに染まれば商売繁盛
- ・ 弱さの情報公開
- ・ 公私混同大歓迎
- ・ べてるに来れば病気になる
- ・ 利益のないところを大切に
- ・ 勝手に治すな自分の病気
- ・ そのまんまがいいみたい
- ・ 昇る人生から降りる人生へ
- ・ 苦勞を取り戻す
- ・ それで順調

### 特別賞 大濱伸昭様



幻覚&妄想大会

今年もまたやってきました。  
幻覚&妄想大会 08!

あなたは、浦河赤十字病院精神科デイケアのソーシャルワーカーとしてメンバーの相談支援に携わるなかで、恩師(向谷地さんの教え子第一号)から言われた「現場に出て、患者に殴られたら一人前」をここに刻み着任早々、異例の速さで順調に殴られ、さらに「仕事で出会った最も助けにくいクライアントは自分」という恩師の言葉を地で行き、現在まで私生活で様々な苦勞に遭遇し、「落ちてゆく人生」をたどるなかで、べてるの仲間と「弱さを絆に」の理念の大切さを生き方で示されました。

特に最近、目眩におそわれ内科を受診した結果、「栄養失調症」と診断されたことは、他人よりもまず「自分の助け方」の重要性を関係者に伝えることになり、その功績は大なるものがあります。

よってここに特別賞を授与いたします。記念品として各種栄養ドリンクと、副賞として、恩師向谷地氏の書いた本「安心して絶望できる人生」を差し上げます。

[注：この紹介文は「べてるの家」HPより転記しました。URL：<http://bethel-net.jp/betheltoha.html>]